

学生のインターンシップマッチングを支援  
八代圏域雇用促進センター開所式



▲関係者によるテープカット

6月1日、八代圏域雇用促進センターの開所式が行われました。同センターは、国の地方創生推進交付金を活用した事業の一環として市、商工会議所、商工会が連携して立ち上げたもので、八代圏域内企業の成長支援と若年層の域内定着を目的としています。主な業務は、①インターンシップに関するコーディネート業務とインターンシッププログラムの企画提案、②各高等教育機関との連携によるキャリアサポート支援事業とUIJターナー者の地場企業就職支援事業、③地場企業の魅力発信・成長支援に関する事業などです。開所式では、松木喜一代代表理事が「学生と企業のマッチングを支援するという役割を果たしていく」と話しました。

入館者1万人突破  
春季特別展覧会「円山応挙」



▲松井館長（右）から記念品を受け取る大浜夫妻

5月28日、市立博物館で開催している春季特別展覧会「円山応挙―京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび―」の入館者数が1万人を突破し、1万人目となる入館者に松井葵之館長から記念品の贈呈が行われました。1万人目となったのは、熊本市の大浜佐幸さん、はま子さん夫妻で、「応挙の作品を県内で観れる喜びと、1万人目にあたり、とても嬉しいです」と喜びをあらわにしました。松井館長は、「昨年、熊本地震により展覧会は中止となりましたが、応挙の作品に興味を持って、当館に足を運んでくれた全ての人に感謝します」と話しました。当館の特別展覧会で1万人を突破したのは、10年ぶりで3回目となります。

100歳おめでとうございます



みなせ 南瀬 サナエさん  
(千丁町)

大正6年6月12日生

千丁町で生まれ育ったサナエさん。昔から歌をうたうことが大好きで、得意の「岸壁の母」や「千丁イ草の歌」を施設の職員に聞かせています。また、大相撲も好きで、よくテレビ観戦しているそうです。長寿の秘訣は「3度の食事の量と時間を守ること」。



井上 一郎さん  
(西片町)

大正6年5月18日生

新町で8人きょうだいの3番目として生まれ育った一郎さん。町内でも元気に散歩する姿が評判で、以前は日奈久まで歩いていました。また、食事に気を配り、好き嫌いがなく何でも食べるそうです。長寿の秘訣は「長年にわたる健康管理と、家族に心配をかけない心掛け」。

スポーツを通じた震災からの復興支援  
スポーツふれあい教室 in 八代



▲基本動作をゲーム感覚で楽しむ

6月11日、八代清流高校体育館で国内でも有数の強豪ラグビーチーム「パナソニックワイルドナイツ」によるラグビー教室が開催されました。この教室は、同チームが、ラグビーの楽しさ、スポーツの喜び、夢を持つことの素晴らしさを子どもたちに伝えるために取り組んでいるものです。市内近郊の小学生や高校生など約50人が集まり、参加者は、ラグビーに必要な基本動作や実践で使えるパスワークの技術などを学びました。ラグビー歴1年で、憧れの選手から直接指導を受けた野村総一朗さん（代陽小3年）は、「今日、教えてもらったことは、普段の練習に役立てていきたいです」と目を輝かせて話しました。



## 力を合わせて走り抜きました 外国人と中学生の交流



▲力を合わせてゴールを目指す参加者

5月22日、外国人の人權に関する啓発活動の取り組みとして、第七中学校の体育大会で外国人と中学生との交流が行われました。これは、地域社会の中で、ふれあいを通じて国際理解を深め、差別や偏見のない共生社会の実現に向けた第一歩として実施されたもので、今回はベトナムの青年約15人が3学年の親子競技で三人四脚を楽しみました。この競技に参加したドアン・バン・ヴィさんは「ベトナムは運動会がありませんので参加できてとてもうれしい。日本の文化を体験できてよかった」と話しました。

## 熊本地震で生まれた交流 在福岡米国領事館と第四中学校



▲給食時間を楽しむゼンジ領事（左）

5月19日、在福岡米国領事館のバネッサ・ゼンジ広報担当領事が第四中学校を訪問し、生徒たちと交流しました。八千把校区まちづくり協議会と同校では、昨年12月に熊本地震の支援のお礼に、感謝の気持ちを込めた手作りのポストカードを同領事館へ届ける取り組みが行われ、後日、キャロライン・ケネディ大使から感謝状が贈られました。生徒たちとの交流を深めたゼンジ領事は、「多くの学生に会い、たくさんのお話ができて楽しかった。給食を初めて食べたが、健康的なランチだったので印象に残った」と振り返りました。

## 勇敢な行動 八代広域行政事務組合消防表彰



▲当日、表彰を受けた人たちとの記念撮影

5月17日、市役所鏡支所で八代広域行政事務組合消防表彰が行われ、中村博生市長から表彰状と記念品が手渡されました。表彰を受けたのは、中北町の佐藤良一さん、西進太郎さん、井山美智昭さん、上田誠也さん、多田稔さんの5人。4月3日に発生した2台の軽乗用車による事故で、5人は通報や車内からの救出活動、初期消火活動などを迅速かつ適切に行い、尊い命を救いました。中村市長は懇談の中で、「助け合うことが日本人の良さであり、皆様の行動に感謝申し上げます」とお礼を述べました。

## いも掘り体験も大人気 第32回ふる郷愛鏡祭



▲愛鏡ポテトのいもほり体験も大盛況

5月28日、市役所鏡支所、鏡文化センター周辺で熊本地震復興祈願第32回ふる郷愛鏡祭が開催され、多くの人でにぎわいました。毎年恒例の畳投げ大会では、抽選で選ばれた32人が参加。一般男性は1畳、小学生以下と一般女性は半畳の畳を投げ、飛距離を競いました。一般男性の部で8・25mの飛距離を出し、優勝した洲崎稔さん（二見町）は「来年も優勝目指して頑張ります」と喜びを語りました。会場内では、かがみ食のフェスティバルや愛鏡ポテトのいもほり体験、魚のつかみ取り体験などのイベントもありました。

## 和文化体験ツアーを商品化 米国シエラネバタ大学の学習旅行



▲お茶を楽しむ外国人

5月25日、アメリカのシエラネバタ大学の教授や学生18人が、日本文化を体験するために日奈久を訪れました。これは、DMOやつしらがインバウンドの旅行者向けに初めて着付け体験やお茶会などの和 문화体験ツアーを商品化したものです。会場となった、国の登録有形文化財である老舗旅館「金波楼」では、初めての着物に袖を通す外国人が、着付け師の手ほどきを受けながら、立派に着込んでいました。その後、お茶会が開かれ正座に不慣れな参加者は、苦慮しつつもお茶の作法を楽しみました。

## 災害時に役立てます 防災井戸「開水式」



▲カー杯水を汲み上げる園児

5月24日、肥後銀行八代支店で防災井戸「開水式」が行われました。防災井戸とは、電源不要で停電時も人力で生活用水を確保できる手押し式の井戸です。一般的には大人一人当たり1日242Lの生活用水が必要と言われており、災害の度に生活用水の不足が課題となっています。式典には同行関係者ら約10人が出席し、防災井戸汲み上げを演習しました。その後、保育園児も汲み上げを体験し、一生懸命水を汲み上げていました。この防災井戸は、災害時に地域の給水拠点として開放される事になっています。





### 地域の食文化を体験 親子ミョウガまんじゅう作り



▲出来たてのまんじゅうは◎

6月7日、千丁幼稚園の園児33人がミョウガまんじゅう作りを体験しました。  
これは、親子で地域に伝わるミョウガまんじゅう作りを体験し、地域の食文化に親しむことを目的としています。  
地域婦人会の皆さんの協力のもと、園児たちが楽しそうにミョウガの葉でまんじゅうを包むと、おいしいまんじゅうが出来上がりました。  
出来立てのまんじゅうをおいしそうに食べていた古田彩里さん(6歳)は、「お母さんと一緒にまんじゅうを丸くするのが楽しかった」と話しました。

### 新茶の香る泉町を満喫 第12回平家いずみお茶まつり



▲野点と喫茶コーナーも大盛況

6月4日、熊本地震復興祈願第12回平家いずみお茶まつりが開催されました。  
泉町は県内でも有数のお茶の産地として知られ、新茶ができるこの時期に合わせて、地域活性化の一つとして行われています。  
特設ステージでは、郷土芸能の久連子古代踊りやお茶のオークションなどがあり、大型テント内に設置された観客席はすべて埋め尽くされる盛況となりました。また、会場内には、お茶の手炒り釜体験や特産品の展示販売、お茶を原料とした喫茶コーナーと野点があり、来場者はお茶づくしの1日を楽しみました。

### 晩白柚がゼリーになって全国へ 「晩白柚香る贅沢なジュレ」販売開始



▲ジュレを試食する買い物客

6月2日、イオン八代店で「晩白柚香る贅沢なジュレ」の発売開始に伴う試食会が行われました。  
イオンでは、日本の食文化を保存・継承するため、「フードアルチザン(食の匠)」活動に取り組んでおり、今回は晩白柚の果汁を使ったゼリーが商品化され、全国約2000店舗で販売されることになりました。この商品は、甘酸っぱい香り豊かな晩白柚の果汁とやわらかいアロエの食感が楽しめるゼリーとなっています。  
試食会場では多くの買い物客が足を止め、新商品の味を楽しみました。

### ランタンをともして冥福を祈る 第10回紫陽花祭り



▲ランタンのともしび

6月11日から18日にかけて、紫陽花祭りが行われました。これは、実行委員会がたくさんの人にアジサイを見て楽しんでもらおうと毎年開催しているもので、万華鏡や舞姫などを含む約80鉢のアジサイが咲きほこり、通行人の目を楽しませました。  
また、初日の11日は熊本地震や東日本大震災で亡くなった人の冥福を祈るため、宮地の和紙を使用したランタンハウスに明かりをともし、がらつぱ広場に飾られました。訪れた人は写真を撮ったり、眺めたりして、色とりどりの綺麗なランタンを楽しんでいました。

### ヨーロッパ最大手のクルーズ客船 「コスタセレーナ」初寄港



▲初寄港したクルーズ客船「コスタセレーナ」

6月11日、イタリアのコスタクルーズ社の「コスタセレーナ」(総トン数11・4万トン、全長290・2m、全幅35・5m)が八代港に初めて寄港し、上海からの乗船客約3300人が、県内各地の観光を終日楽しめました。  
船内で行われた歓迎セレモニーでは、中村博生市長が「スタッフの皆さんも市内に足を運び、美味しい食事や観光を楽しんでください」と歓迎。同客船のジュリオ・ヴァレストラ船長は「今回の寄港が、定期的に八代への寄港につながるきっかけのひとつになれば幸いです」と話しました。

### 歯と口から健康に やつしろ歯の祭典



▲ブラッシング指導を受ける子ども

6月10日、やつしろハーモニーホールなどの三会場で行った歯の祭典が開催され、親子連れなど約1700人でにぎわいました。  
これは口腔衛生や食育・健康などの正しい知識の普及を図り、口腔から全身の健康の関心を高めることで、市民の健康増進を図ることを目的としています。  
また、小学生図画ポスター入賞者と高齢者良い歯コンクール優秀者の表彰式も行われ、八代市賞を受賞した小島陸翔さん(有佐小3年)は「賞をもらえて嬉しいです。もつと歯磨きを頑張っていきたいです」と笑顔で話しました。